



2019年(令和元年)
7月25日
木曜日

地域とともに

発行所
山陽新聞社
岡山市北区柳町2-1-1

電子版山陽新聞デジタル
https://www.sanyonews.jp

岡山県内キャベツ

契約栽培倍増へ

倉敷青果
荷受組合 加工需要増に対応

食品加工・卸の倉敷青果荷受組合(倉敷市西中新田)は、岡山県内のキャベツの契約栽培を倍増させる。ラフィスタイルの変化でサラダやカット野菜向けに加工需要が増えているため、仕入れに占める県産比率を高め、輸送コストを抑え、同時に、遊休農地の有効活用にもつなげようとしている。

同組合は西日本最大規模の工場を構え、毎日1500品目、年間1万3千トンを加工。西日本を中心に大手コンビニやスーパー、外食産業に供給している。最も使用量が多いキャベツは年間約2400トのうち約千トが県内で、2019年度中に契約農家を増やすことで2倍近い1800トまで引き上げる。



倉敷青果荷受組合向けに加工用キャベツを収穫する新見市大佐地区の住民グループ

(東京)によると、国内のスーパーでの加工野菜販売額はここ10年ほどで9倍以上になっている。

同組合は、これまでも加工用野菜を安定供給するために契約栽培に力を入れてきた。このうち、新見市大佐地区では住民グループが耕作放棄地をキャベツ畑に転用する活動を進めており、今後は中山間地域を中心にこうした遊休農地の再生も後押ししていく方針。

富本尚作専務は「価格が市況に左右されない契約栽培は、農家の収益を安定化し規模拡大や設備投資の計画を立てやすくするメリットがある。担い手不足が深刻な地域の農業を支えていきたい」としている。(久万真毅)

加工野菜は、単身世帯や働く女性が増えたことに加え、人手不足から調理の手間を省きたい外食産業からの需要も高まり市場が拡大している。独立行政法人・農畜産業振興機構

食と農